

2017年度 事業運営報告

1. 事業報告

1. シンフォニー定期演奏会（第216回～第223回）

ザ・シンフォニーホールを会場として金曜・土曜と2日連続の8公演、いずみホールを会場として4公演の計20公演を開催した。指揮者には2014年4月より首席指揮者に就任した飯森範親、首席客演指揮者に就任したアラン・ブリバエフを中心に海外の客演指揮者を起用（第220回は秋山和慶氏）。ソリストには国内外で活躍する実力派演奏家を迎え「芸術性の追求」と「集客」のバランスを考慮し公演を企画した。

いずみ定期演奏会（No.35～No.38）

ハイドンの交響曲を全曲演奏・録音する「ハイドンマラソン」も3シーズン目となり、当楽団の首席演奏者をソリストに起用するなど新たな展開を図った。

2. センチュリー豊中名曲シリーズ（Vol.2～Vol.5）

豊中市立文化芸術センターの指定管理事業に携わりながら4公演を開催し、また、ホールとの共催事業として「夏休みファミリーコンサート」を行うなど豊中市の文化芸術の発展や地域活性化に貢献した。

3. エンジョイ・センチュリーシリーズ

他ジャンルとのコラボレーションによりクラシックファン以外の方々が楽しめるコンサートを企画し、集客の拡大を図った。

「ドラゴンクエストスペシャルコンサート」

2017年11月3日（ザシンフォニーホール）

「中川晃教シンフォニックコンサート」

2017年11月12日（豊中市立文化芸術センター大ホール）

4. 大阪以外での共催公演

広域での観客層の拡大、楽団の認知度、スポンサーの獲得を目的とし、各地の文化財団との共催で、三重（三重県文化会館）、大津（びわ湖ホール）の2会場で公演を開催した。

5. 社会貢献活動

小学生向けの体験型コンサート「タッチ・ジ・オーケストラ」（16公演）、大阪府下の特別支援学校の児童・生徒を対象にした「特別支援学校コンサート」（1公演）、入院患者や来院者のための「病院コンサート」、支援学校へ訪問演奏する「支援学校コンサート（巡回）」（10公演）を開催した。

また、地域社会との共同やオーケストラの新しい可能性を開拓するため「若者の

就労支援」「家族」「高齢者」「地域住民」との活動を4つの柱として、プログラムディレクターの野村誠氏（作曲家）とともに楽団員が一般市民とのワークショップやパフォーマンスを実施。これまでオーケストラやクラシック音楽と出会う機会の無い、あるいは少ない人々ともNPO、行政、大学等と連携しながら積極的に創作活動に取り組んだ。自主事業として実施する他に、文化庁、豊中市、芸術文化魅力育成プロジェクト実行委員会（構成：大阪府、大阪市）、（公財）東京都歴史文化財団東京文化会館等からの依頼を受けて同事業を展開した。

6. センチュリー・ユースオーケストラの指導

公益財団法人関西テレビ青少年育成事業団と連携し、中学1年生から29歳までの青少年を募り、ユースオーケストラを組織して指導・育成を行った。星空ファミリーコンサート、第10回定期演奏会において日頃の活動の成果を披露した。

7. アンサンブル

12月に「センチュリー室内楽シリーズVOL.3」を主催公演として開催。JR大阪駅での「センチュリーエキコン」、関西アーバン銀行心斎橋本店での「アーバンイブニングコンサート」、弁護士会館での「ランチタイムコンサート」、御堂筋での大阪クラシックをはじめ、アンサンブルでの公演に多数出演した。また京阪電気鉄道なにわ橋駅・アートエリアB1では楽員が主体となりアンサンブルコンサートを企画・開催した。

8. 依頼公演

豊中まちなかクラシック、守山ルシオールアートキッズフェスティバル、びわ湖ホール主催のオペラ公演、吉本新喜劇とのコラボ「オーケストラ新喜劇」、文化庁「文化芸術による子どもの育成事業」の他、過去最多数の依頼公演に出演した。

9. 豊中市立文化芸術センター指定管理事業

2016年4月より豊中市立文化芸術センターの指定管理事業に携わり、収支構造は良化していないものの、2事業年度連続で最終収益は黒字決算となった。

10. 豊中市との連携

2012年に豊中市と提携した「音楽あふれるまちの推進に関する協定」に基づき、「豊中まちなかクラシック」として豊中市内各地でコンサートを実施した（アンサンブル10公演、オーケストラ1公演）。

11. CDの制作

楽団のPR、演奏技術の向上を目的とし（株）オクタヴィア・レコードと協力しCD制作に参加した。

○ハイドン：交響曲全集VOL.2（2017年6月21日発売）

○ハイドン：交響曲全集 VOL. 3 （2018年3月21日発売）

飯森範親/日本センチュリー交響楽団 いずみホールにてライブ収録

12. オーケストラハウスの管理

大阪府から貸与を受けているセンチュリー・オーケストラハウスの一部を音楽サロンとし、音楽に関連する情報誌や交響楽団の歴史等の書籍を設置し、市民が利用できる公共スペースの場として提供した。

■カテゴリー別事業損益（単位：千円）

| | 2016年度 | | | 2017年度(決算) | | | 2018年度(当初予算) | | |
|---------------|----------------|----------------|------------------|----------------|----------------|------------------|----------------|----------------|------------------|
| | 収入 | 支出 | 損益 | 収入 | 支出 | 損益 | 収入 | 支出 | 損益 |
| シンフォニー定期 | 72,723 | 101,770 | ▲ 29,047 | 63,622 | 94,290 | ▲ 30,668 | 75,383 | 64,751 | 10,632 |
| いずみ定期 | 19,129 | 18,826 | 303 | 15,352 | 13,891 | 1,461 | 11,397 | 11,067 | 330 |
| その他自主 | 41,946 | 51,714 | ▲ 9,768 | 49,001 | 43,009 | 5,992 | 80,056 | 67,045 | 13,011 |
| 自主公演計 | 133,799 | 172,310 | ▲ 38,512 | 127,975 | 151,190 | ▲ 23,215 | 166,836 | 142,863 | 23,973 |
| 依頼公演 | 190,534 | 83,921 | 106,613 | 177,315 | 100,843 | 76,472 | 177,403 | 64,991 | 112,412 |
| 豊中事業 | 27,338 | 21,810 | 5,528 | 37,687 | 37,257 | 430 | 36,177 | 24,488 | 11,689 |
| 演奏事業合計 | 351,671 | 278,041 | 73,629 | 342,977 | 289,290 | 53,687 | 380,416 | 232,342 | 148,074 |
| 共通・管理費用 | 58,262 | 434,717 | ▲ 376,455 | 135,569 | 390,146 | ▲ 254,577 | 31,400 | 314,474 | ▲ 283,074 |
| 総合計 | 409,933 | 712,758 | ▲ 302,826 | 478,546 | 679,436 | ▲ 200,890 | 411,816 | 546,816 | ▲ 135,000 |

II. 楽団運営

1. 事務局体制

演奏事業部、総務経理部の2部体制で運営。従前の企画制作部と営業推進グループを演奏事業部内の部署とし、情報伝達指示系統、照査経路を確立し業務の効率化を図った。

豊中市立文化芸術センター指定管理業務に携わる出向者2名については、楽団側とホール側とで定期的にミーティングを行い情報共有している。

2. 広報宣伝概要

公演プログラム、チラシ、webマガジンの制作費用を見直し、広告宣伝費の大幅削減が実現した。SNSの活用にあたり楽員にも協力を仰ぎ、ファンの拡大に向けオールセンチュリーで取り組んだ。また、豊中市内の全小中学校へ親子鑑賞プランのチラシ、案内を送付し、豊中名曲シリーズの動員強化に努めた。

3. 法人営業強化

体制を強化し、既存会員のフォロー強化と新規スポンサーの開拓を実施。

法人サポーター会員 63社 → 66社

オフィシャルスポンサー 10社 → 12社に拡大

4. 人事情報

- ・ 楽員人事 首席フルート奏者決定 永江真由子
(2017年11月審査/12月就任)
- 退職者4名 近藤陽一 (チューバ奏者)
増田千湖 (コントラバス奏者)
小笠原寿雅子 (ヴァイオリン奏者)
本吉優子 (ヴァイオリン奏者)
- ・ 事務局人事 退職者3名 田中幸成 (事務局長)
椿本実加 (総務経理部)
栗山賀容子 (企画制作部)
(ウキヨ-株式会社より出向の法人営業担当は出向契約終了)
- 入職者2名 畔永良平 (企画制作部)
(2018年度4月 演奏事業部1名、総務経理部1名入職)

以上